

検討の目的

- CBDCの円滑な普及・立ち上げを促進するための一つの手段として、既存の決済ネットワークを活用することが想定される
- 共通の技術方式であるFeliCa(NFC-TypeF)を活用するQUICPay(以下QP)とiDを検討の素材として、個社企業に捉われない視点を以て既存決済ネットワークの活用の在り方についてケーススタディを実施

検討メンバー

- ジェーシービー様、ソニー様、フェリカネットワークス様、NTTドコモ

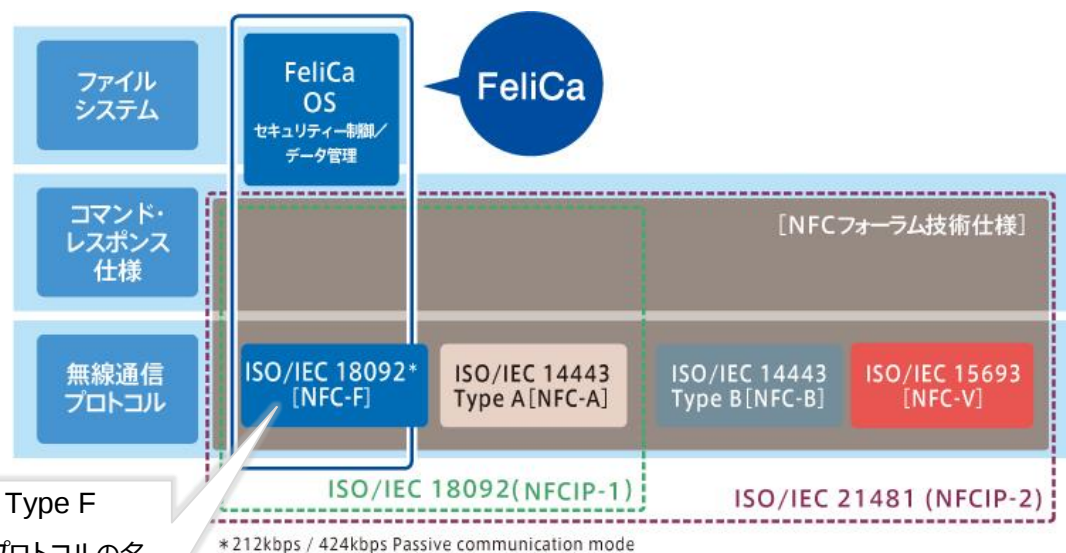
検討のアプローチ

- ユーザーがCBDCを用いて店舗で決済を行うことを想定し、それらに必要となる3つの領域とそれぞれの論点を洗い出し
 - ① ユーザー側と店舗をつなぐインターフェイス領域
 - ② ユーザー側のバリュー管理領域
 - ③ 店舗側のバリュー管理領域

参考．共通技術方式であるFeliCa(NFC-TypeF)とQP、iDの関係について

- FeliCaはソニー(株)が開発した非接触ICカード技術であり、無線通信プロトコル、コマンド・レスポンス仕様、ファイルシステム仕様等から構成されている。FeliCaの無線通信プロトコルはISO/IEC 18092にて標準化されている（NFC-TypeF）。
- QP、iDはFeliCa技術を用いた決済サービスであり、FeliCaのファイルシステム仕様上に各サービス独自のデータフォーマットを規定し、ICカードやスマートフォン等の媒体に各サービスのデータフォーマットを発行、会員情報・イシュー情報等のデータを設定し、サービスを提供している。

FeliCaとNFC（Near Field Communication）の関係



FeliCa技術を用いた決済サービスの事例

楽天グループ「楽天Edy」、(株)セブン・カードサービス「nanaco」、イオン(株)「WAON」などのプリペイド型電子マネーや(株)ジェーシービー等が推進する「QP」、(株)NTTドコモ「iD」などのポストペイド型電子マネーに採用されている。

また、プリペイド型の交通・電子マネーとして、全国10の交通系ICカードの相互利用サービスで利用されている。

- 既存決済の活用に向けた検討フレームワークとして、利用ユーザーがCBDCを用いて店舗で決済を行うことを想定し、それらに必要な3つの領域とそれぞれの論点を洗い出し

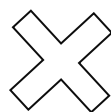
2

ユーザー側の
バリュー管理領域



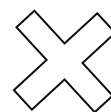
1

インターフェイス領域
ユーザ⇔店舗



ユーザー
媒体

店舗決済端末



3

店舗側の
バリュー管理領域

